

令和三年度における事業並びに財務状
況の報告をします。また、自己評価・学校
評価を掲示して情報公開します。
ホームページからも閲覧可能です。

期間令和四年五月三十日より

学校法人 藤田学園 藤田幼稚園



理事長・園長 藤田道信

事業報告書

令和3年度



設置者	学 校	法 人	藤 田	学 園	
幼稚園名	藤 田			幼 稚 園	
理事長・園長 藤 田 道 信					
所在地	静岡県富士市大淵2964番地の1				
定員数	300名	認可クラス数	年少	年中	年長
			3	3	3
		学年定員数	90名	105名	105名

理事長挨拶

本学の使命は、建学の精神に基づき運営され、幼児教育を通じ人間社会の幸福をつなげ・ひろげていく架け橋となるよう、研鑽努力することにあります。

教育内容の充実発展・施設設備の整備充実・保護者の教育費の負担軽減・家庭教育の充実を運営の柱とし計画運営を目指しています。その為には、学園を取り巻く社会環境や内部環境を分析した経営を行わなければなりません。本学の発展は本質を見失わず、着実に歩みを進めたいと願っています。法人の役員・教職員、そして保護者の皆様とともに、子どもたちの幸福と健やかな成長を願い挨拶とします。

建学の精神

人間の一生の中で無限の可能性に富み、人格形成に大きく影響をおよぼす幼児期の教育は何事においても大切な時期である。家庭教育、社会教育の与えるものは、幼児の生涯を左右するといっても過言ではない。集団生活の中で、幼児としてより多くの遊びの中で体験を積み重ねさせ日常の基本的な生活習慣と社会性を養い、心身ともに健全なる発達を助長することが教育の場であり、使命である。その責任は無限であり、やがて次代を担う若者としてたくましい人間育成の理念と信念をもって、日々自ら研鑽に努め教育道をもって地域社会の先覚に努めることにある。

法人の概要

(1) 学校法人

学校法人名	藤 田 学 園
学校法人認可年月日	昭和 ・ 平成 52 年 3 月 12 日
学校法人登記年月日	昭和 ・ 平成 52 年 3 月 12 日
設置する園名	設 置 認 可 年 月 日
幼稚園	藤田幼稚園

(2) 役員の数

(単位:人)

選任区分	定数	実数	任期
園 長	1 人	1 人	4 年
評議員	2 人	2 人	4 年
学識経験者	3 人	3 人	4 年
	人	人	年
	人	人	年
	人	人	年
理事計	6 人	6 人	年
監事	2 人	2 人	4 年

(3) 評議員の数

(単位:人)

選任区分	定数	実数	任期
教職員	3 人	3 人	
卒業生	5 人	5 人	4 年
父母	人	人	年
学識経験者	5 人	5 人	4 年
	人	人	年
	人	人	年
	人	人	年
評議員計	13 人	13 人	4 年

幼稚園の概要

教育目標・方針	【富士山のように】 1. じょうぶでねばりつよい子 1. ゆたかなこころの子 1. どりよくしてつくりだしていく子 1. すすんでとりくめる子 こどもを第1に 個の尊重と集団生活の調和 時代認識と将来性 子どもの健やかな成長を教師、保護者、地域社会が連携協力し支えます。 思いやり感謝の気持ちを大切にします。公共性を重んじみんなでルールマナーを進んで守ります。普遍である本質を守り時代の変化を認識します。
特徴	子どもをまん中にした思考と実践を進める

園児数(クラス毎)

当年度4月1日現在

学級名	満3歳児			3歳児			4歳児			5歳児			学年計			
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計				
つくし	6	5	11										11			
すみれ				10	11	21							41			
たんぽぽ				10	10	20										
													44			
ゆり							11	11	22							
ひまわり							11	11	22							
													52			
ふじ										14	13	27				
さくら										13	12	25				
合計	6	5	11	20	21	41	22	22	44	27	25	52	男	75	女	73
	男	女	学年計	男	女	学年計	男	女	学年計	男	女	学年計	148			

※満3歳児入園は3歳児クラスにて対応

教員数	園長	副園長	教諭	助教諭	養護教諭	講師	臨時教諭	その他							合計
	1		8												9
職員数	事務長	事務主事	事務員	用務員	パート運転手	調理員	警備員	パート事務	その他						合計
	1				1			1							3
当年度卒園予定	男	女	計(名)		建物面積		1113.35		m ²						
	23	38	61		園地面積		2914.93		m ²						
施設名	保育室	遊戯室	預かり室	防災倉庫	ひだまりの森 (敷地外自然教育施設)		9,593		m ²						
	9	1	1	1											

事業方針	事業の推進	・園児ひとり一人の成長発達の課題を踏まえ教育内容を構成し実践する。 ・集団生活の中で様々な体験を積み生きる力の源泉を育む活動を展開する。 ・家庭に対して、子育て支援の充実とともに家庭教育の重要性を伝える。 ・幼児期に大切な育ちについて保護者そして地域社会へ訴える。 ・地域社会の要請やニーズに取り組む経営を推進する。 ・宣伝広報を充実し、藤田幼稚園の周知と内容の理解を深めらる事業を展開する。 ・満三歳児教育と預かり保育の充実をはかる。 ・幼児教育の無償化に伴い実務の適応力を図り、ICT化を進める。 ・コロナ対策を踏まえた教育活動を進める。 ・クラス配置を工夫し、異年齢の関わり、教員の融合性共和制を進める保育をする。	
	予算編成の基軸	①園施設の補修・修繕(屋根・LED・その他) ②教材・教具の無駄を省くが、充実した教育活動ができるよう十分配慮する。 ③ひだまりの森の環境整備 ④保健衛生・安全・防災・防犯等の施設・設備・備品整備 ⑤職員室等の施設設備を行う ⑥教職員の処遇改善 ⑦経費の無駄を省く	
	具体項目	内 容	
1	教育計画	教員の資質向上と実践	教育実践を通じ互いに高めあう。 感性を磨き表現していく事を楽しむ。 技術や技能、知識習得に励み自身の資質向上を進める。
		個と集団	一人ひとり成長発達の課題に対し、きめ細やかな指導・支援を実践していく。 障害等、専門家と協力し、保護者との共通理解を深め適切な支援を進める。 非認知能力の発達を促し、子どもの可能性を広げるカリキュラムを進める。 集団の教育力を活かし、一人一人が成長するように教育実践をすすめる。
2	研究計画	研究活動	教材研究にいそしみ、自らの技能の向上を図る。 社会、組織の中で大切な道徳性について研究研修する。 オンライン研修の導入を進め、自ら学ぶ体制を整える。
		自己点検評価	教師自ら、自己点検・評価をし自己研鑽に励む。 学校評価により良い教育運営が図られるよう評価の整備を進める。 外部の評価や意見(地域・保護者等)を活かしより良く発展していく。
3	地域連携計画	地域連携	地域コミュニティの主催する行事、事業に参加。地域教育機関との連携を図る。研究会研修会等の参加。地域として富士山を踏まえた事業協力。その他機関、団体の協力を進める。またコロナ対策を踏まえた対応が必要。
		幼少保等連携	小学校との情報交換の充実。子ども達の交流など機会を使って園児と児童、教員間の交流を図る。大淵地区の幼保小で、おやこんぼ事業展開する。
4	施設設備計画	教育研究	園児の教育活動を充実する為の設備整備を進める。機器備品の状態を確認し必要性に応じ廃棄・整備していく。日常の管理に心掛け耐久性の向上や美化に努める。
		施設設備	教育環境設備の対応を図ると共に、園舎施設の老朽化また修繕について計画性をもって対応する。 LED化未実施の部屋のLED化を進める。 安全管理と同時に修理修繕を行い、耐久化を進める。
5	管理運営計画	事務・園務運営	事務内容の分担性により、事務の効率化と確実性を図る。自己点検評価、個人情報、情報公開にも適切に対応していく。 施設利用の実務を市当局との連携を密にし効率化を図る。
		労務環境	女性の働く場として、教育の充実・子育て支援の充実に繋がる相乗効果を目指す管理のあり方を研究し実践していく。 働き方の見直しと職員間の信頼、園の目指す姿を明確にし、働くことが楽しくなる職場づくりを推進する。
6	財務計画	留保金の確保	経費削減に努め留保金の確保を行い、将来の安定を図る。 減価償却額は確保していくよう努力する。 できる事は業者を頼らず、職員で対応していく。 園児数の自然減が厳しい状態、無理な出費は控える。
		計画的運営	教育環境の充実と活気を持ち、選ばれる幼稚園を目指す。 地域性を踏まえ今後の経営を思慮深く進めるが、基本は子どもの最善の利益を追求する。 地域の乳幼児保育教育を本園が担っていくように努め計画を進める。

令和3年度		事業報告	
事業方針	教育事業の推進	事業計画に基づき、教職員で検討し常に反省を重ねながら実践をしてきた。今年度クラス配置を工夫した事から、園児たちの交流が学年齢を超え互いに学び教え合うまた気遣いなど弱年齢に対する思いやりや年長者に対する感謝の気持ちなどが育まれ子ども達の成長の糧となった。そんな中、今年度もコロナ対策にも追われ、各種事業の見直しや改変をしながら、園児たち経験・体験が発達成長を損なわないよう、また保護者の理解と協力を得ながら進める事ができた事は、本園の尊い力であった。令和4年度施設型給付園に移行することを決め準備を進めた。	
	予算の執行	①園施設の補修・修繕(屋根・LED・その他)は雨漏りの防止対策を園長自ら実施したが本格的な修理は今後必須である、 ②教材・教具の無駄を省く努力を常に進め、効率的また創意工夫をして教育的要素を十分に配慮した対応ができた。 ③ひだまりの森の環境整備は事業者の協力のもと、整備を進めた。安全と地域周辺へ配慮した整備事業を行った。今後、乗用草刈り機の購入を予定している。 ④保健衛生・安全・防災・防犯等の施設・設備・備品整備は特にコロナ対策の備品や消耗品の購入が大きかったが、今後も継続していくことが重要である。 ⑤職員室等の施設設備に加え、空き教室の利用として図書室や自由部屋を設置したが備品等は今後の課題である。 ⑥教職員の処遇改善は政府の目指す内容で改善をすすめる事が出来た。来園度はより一層の改善を目指している。 ⑦経費の無駄を省く、常に購入する際には十分な検討を行った。	
	具体項目	内 容	
1	教育計画	教員の資質向上と実践	教育実践を通じ互いに高めい感性を磨き表現していく事を楽しみながら技術や技能、知識習得に励み自身の資質向上を進めた。
		個と集団	一人ひとり成長発達の課題に対し、きめ細やかな指導・支援を実践していく特に障害等、専門家と協力し、保護者との共通理解を深め適切な支援を進める事ができた。非認知能力の発達を促し、子どもの可能性を広げるカリキュラムを進め、集団の教育力を活かし、一人一人が成長するように教育実践を推進してきた。
2	研究計画	研究活動	日頃から教材研究にいそしみ、技能の向上を図る努力を進めた。コロナ禍の研修は大変困難を重ねた、オンライン研修が主体となり対人集団で実施する研修は皆無であり、自ら学ぶ体制を整える努力をしてきた。
		自己点検評価	毎日の自己反省と評価を自己研鑽として取り組み、学校評価により良い教育運営が図られるよう評価の整備を進めてきており、外部の評価や意見(地域・保護者等)を考慮し園運営のあり方を考察してきた。
3	地域連携計画	地域連携	地域コミュニティー等の主催する行事、事業に参加は、コロナ禍の為、事業が中止となり社会活動ができない中、自然と関わる事業や幼年消防クラブとしての自主事業を12分団と進める事ができた。Withコロナは今後も課題である。
		幼少保等連携	小学校との情報交換の充実を進める予定だったが、コロナ過で大きく後退してしまったが、進学園児の学校見学はできた。また、園長が学校運営協議会委員になった事から情報交換はできた。また大淵地区の幼保小で、おやこんぼ事業展開をこない、大淵地区年間行事予定表に掲載も叶った。
4	施設設備計画	教育研究備品等	園児の教育活動を充実する為の設備整備を進め、機器備品の状態を確認し必要性に応じ廃棄・整備しながら、日常の管理に心掛け耐久性の向上や美化に努めた。
		施設設備	教育環境設備の対応を図ると共に、園舎施設の老朽化また修繕について計画性をもって対応しようと検討していたが経費的観点から実行できていないのが現状であり、LED化未実施の部屋のLED化・屋根の改修は今後も計画的に実施したい。加えて、その他の遊具等の安全管理と同時に修理修繕を行い、耐久化を進めるようにしてきた。
5	管理運営計画	事務・園務運営	事務内容の分担性により、事務の効率化と確実性を図るようにしてきたが、施設型給付園移行や処遇改善・寄附行為改正・就業規則の改正など多くの実務が複雑化し、激務となる。もう少し事務分担の精選が必要とであり、事務員の増員も今後課題である。
		労務環境	女性の働く場として、また、職員の高齢化、若年層の退職が有り、今後の人材確保と共に、働き方の見直しと職員間の連携がより重要な場面となる。また、支援を必要とする子ども達の対応や課外活動への職員の労務も課題であり職員数の増員も必要になってきている。今後の課題である。
	財務計画 (裏面有り)	留保金の確保	経費削減に努め留保金の確保を行い、将来の安定を図りたいと努力をしたが私学助成園では大変経営が厳しい事から、施設型給付園移行に伴い経営の改善を図る事を決断し準備を進めた。今後、この結果が園経営の安定と継続性の担保となるよう一層の努力が必要である。

6		計画的運営	教育環境の充実と活気を持ち、選ばれる幼稚園を目指す事は、本学の理念でもあり、富士市立大淵幼稚園の廃止をもって、大淵地区の唯一の幼稚園として、地域性と歴史、風土を踏まえ経営を進める事を決意をもって運営をしている。その中で、全ての基本は子どもの最善の利益を追求することであり、地域の乳幼児保育教育を本園が担っていくように努め計画を進め、信頼できる経営を財政面からも安定に繋げていく努力がますます必要である。
---	--	-------	--

令和3年度の教育活動等に対する学校評価

令和4年3月11日

学校法人藤田学園藤田幼稚園長 藤田道信

学校法人藤田学園藤田幼稚園学校関係者評価委員会

1 幼稚園の教育目標

人間の一生で無限の可能性に富み、人格形成に大きく影響を及ぼす幼児教育は何事においても大切な時期である。集団生活の中で幼児としてより多くの遊びの中で体験を積み重ね「富士山のように」1.じょうぶでねばりつよい子2.ゆたかなこころの子 3.どりよくしてつくりだしていく子4.すすんでとりくめる子を目指し、やがて次代を担う、たくましい人間、豊かな心をもって大きくはばたく人間育成を目標とする。

2 本年度の重点課題

- 幼児の能力や資質の可能性を広げる教育実践をする
- コロナ過に対応した、幼児期に育ってほしい姿を保育の中で整理し実践する
- コロナ過にあっても、保護者や地域社会との関わりをつなげる活動をする
- 健康安全教育の推進

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	取組・反省と改善策	評価点	評価・意見
● 幼児の能力や資質の可能性を広げる教育実践をする	A	多くの実体験の中で、心情意欲を育めるようにひとり一人の個性に即した手立てと支援の実践に取り組んできた。園児たちは常に快活で自ら取り組めるようになってきている。笑顔の絶えない子ども達である。	A	園児達の快活な姿に感心する。コロナ過で様々な体験が自粛・削減・中止などある中で、感染予防を傾注し出来る限りの教育活動や行事を実践した結果だと思う。教員の努力・創意工夫・知識活用に感心する。
● コロナ過に対応した、幼児期に育ってほしい姿を保育の中で整理し実践する	B	幼児期に育ってほしい非認知力は様々な事象の中で起きる葛藤や問題解決への経験から育まれることから、保育の中では自分で考え行動すること、友達と共有し活動する事を実践してきた。	B	コロナ過で互いの思いや考えを思いっきり伝えあう事は大変難しかったと思う。日常生活の中で、子ども達がお互いに助け合う姿、当番活動や行事のお手伝いの様子はその一つだと思う。先生たちが常に子ども達を信じてくれていう事が嬉しい。
● コロナ過にあっても、保護者や地域社会との関わりをつなげる活動をする	B	コロナ禍が続き、本年度も保護者・地域社会との連携をいかに繋げるか、情報を発信するか大変苦慮した。今までにない感染対策という業務が多岐に渡り、教育活動や地域社会活動に大きな負担を強いられた。この	A	今年も藤田幼稚園が地域の中で活躍できれば良いなと願っていましたが、やはりコロナ過でその機会が失われたことを残念に思います。地域の文化祭や消防クラブの活動など子ども達の活躍する姿を社会が認める事で、子ども達も社会の一員として

		影響は日常保育の在り方にもダメージを感じた。しかし保護者の皆さんの理解と協力には心より感謝している。入園説明会から常に、子どもをまん中にした教育運営の協力をお願いし、その実践には保護者の大きな理解があればこそであり、この事が本園の強みである。保護者との良好な関係の中で教育実践ができた事は大きな成果と確信をした。また、地域社会との連携の継続は今後も重要な課題である。		自覚することも大切な教育だと思います。そんな中、消防団と一緒に火災予防を呼びかける姿、農協さんとの農業体験やお茶うがいなどの活動を見聞きし、この状況下で頑張って、地域社会との連携を図っている事を感じました。また、保護者は本当にコロナ禍の対応に感謝していると感じます。出来る限りの行事運営に協力してくれているなと思います。
● 健康安全教育の推進	B	今年度もコロナ対策に傾注してきた。しかし同時に日常保育の中でいかに園児達の行動や活動が損なわれないよう基本的な健康・安全・に注視し、日頃からの指導や教育に努めてきた。大きな怪我や事故もなく、また園内でのコロナ及び他の感染症も広がる事もなく健康的にすごしてこられたと思う。また、交通教室等や園児健診等も全て実施できたことは良かったと思う。	A	目の離せない子ども達の安全は本当に大変だと思う。また、現在の環境下では様々な事が抑制されて子ども達も不安定ではないかと思います。その中で、子ども達が自らを守る方法を知り、生きる力を身に着けることも多雪ですね。幼稚園ではそんな体験や学習をしてくれているのが嬉しいです。これからも子どもを守り育てるようみんなで頑張っていきましょう。
その他事項		コロナ過にあたり、当たり前だった行事を見直し、創意工夫と共にその成果を今後の課題として検証する必要がある		コロナで出来なかった事や工夫したことの検証は重要ですね。
財務状況	C 園児数の自然減は今後も著しい。 来年度、新制度移行に伴い安定を図りたい。			

結果・評価

A：十分に成果があった

B：成果があった

C：少し成果があった

D：取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

教育重点目標である「心をつなごう」をテーマとし教育を実践した。私たちの大事な使命は、子ども自ら関わり、知識を求め獲得し、その知識を使って創意工夫し実践し、課題や目標に向かって取り組み、達成感を味わい非認知力を育めるように環境を整え指導援助する事です。

本年度の教育活動において、①幼児の能力や資質の可能性を広げる教育実践をする。②コロナ過に対応した、幼児期に育ってほしい姿を保育の中で整理し実践する。③コロナ過にあっても、保護者や地域社会との関わりをつなげる活動をする。④健康安全教育の推進する。

この4つの柱をもとに実践を重ねてきた。そして、実践の内容についての一部を、ホームページ・週のお知らせ・動画発信を使い、活動の成果・その思いや願い目的を公開することで、子ども達の育ちについて保護者や地域社会に発信し幼児教育の必要性和重要性を共有していただき、幼稚園と家庭が地域社会が子どもをまん中に考え、子ども達の最善の利益を目指す社会づくりへ貢献したいと続けている。

また以下についても引き続き私たちの使命と課題として以下の事項について確認するところである。

- ① 幼稚園は地域の中で子どものすばらしさ大切さを社会に訴え貢献しなければならない。
- ② より良い教育実践の為に、教職員の資質向上は重要である。
- ③ 保護者の理解・協力は本園の一番の財産である。子どもの健やかな成長を共に共有し喜び合える環境を作っていたいてる事は、お子さんの成長を通じ恩返しができるよう励み努めていきたい。
- ④ 施設設備の充実、機能の維持と向上など、重要な物的環境の整備を計画的に進めなくてはならない。
- ⑤ 財政基盤の強化も大きな課題であり、園児数の自然減にともなう地域的課題も合わせて考えていかなければならない。新制度の移行をすることにより基盤固めを進めなければならない。

5 来年度、取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
子ども・子育て新制度移行対応。	幼児の最善な幸福と人間社会に於いて不変たる人間教育の基本を柱とし実践していく幼児教育機関として信頼される園運営を目指していく。時代に必要な子育て支援の在り方と共に、本来の子どもの育ちにとって重要な育ちについて発信していく。
教職員の資質向上	教員同士が実践の中で互いを高め合うようにする。処遇改善を進める。
保護者及び地域に期待される教育機関	保護者のニーズ・地域の実態・を十分に踏まえ、教育事業の取り組みを検討する。地域の中で重要な教育機関としての在り方をしっかりと構築していく。
教育環境の整備と財政基盤の確保	幼稚園の内外環境の充実はから安心と信頼に努める。特に、ハード面の改修には資金が必要である。少子化における園児数の減少からその確保が課題である。無駄を省き、英知をもって計画的に進めなければならない。
コロナ対策	コロナ感染対策、コロナ禍の教育実践について情報の確保を確実にを行い幼稚園教育が止まることなく実践できるよう創意工夫するとともに、保護者や地域社会と連携を進める。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

- ・今年もコロナ過の中、本当に大変だったと思います。先生方には頭の下がる思いです。その中でも出来るだけ行事を工夫し開催されたことは素晴らしかったと思います。子ども達また保護者の為に今後ともよろしくお願いします。
- ・運動会もできて良かったです。親御さんだけでなく、本当は祖父母も見たかったと思いますが、ご家庭での協力も力になりましたね。まだまだコロナ過は続くと思いますが、そういった家庭で協力してくれる方々に何か伝える方法があればと思いました。
- ・子どもマスクもどうしているか心配でしたが、時と場所で使い分けをして、子ども達の発達を損なわないよう考えてくれている事は良かったです。無理に付けても息が苦しいし、思いきり遊べなくては育つもの育たないですからね。また、子ども自らが着脱できるよう細やかな指導もいいと思いました。
- ・マスクで表情が見れなく、子どもの心の成長が心配でしたが、園長先生がより子ども達にまた子ども同士が相手の気持ちを察しようとする目の力、洞察力が生まれていると聞き子ども達の様子をみると本当に目をみて表情が分かるかのようでした。無い物のでも生まれる事もあるんだなとおもいました。
- ・大淵地区の子ども達も少なくなりました。小学校も中学校も今後一貫教育になりそうな勢いですね。大淵2小の合併も進み、公立幼稚園も終わります。地域の中にある幼稚園として責任をもって頑張りたいと思います。
- ・卒園児も4000人を超えると聞いて、歴史の長さを感じます。これからも永久的に続いてほしいと思います。園長先生の言う子どもたちのふるさとでありますように。



財 務 状 況

【資金収支計算書】

科 目	決 算 額
収入の部	
学生生徒等納付金収入	44,487,430
寄付金収入	52,000
補助金収入	29,243,500
付随事業(補助活動収入)	9,606,550
受取利息・配当金収入	3,067
雑収入	1,288,747
借入金等収入	0
前受金収入	0
その他の収入	2,361,434
内部資金収入	0
資金収入調整勘定	△ 1,245,734
前年度繰越支払資金	16,697,084
収入の部 合 計	102,494,078

支出の部	
人件費支出	58,499,889
経費支出	19,913,051
借入金等利息・返済支出	885,379
施設関係支出	0
設備関係支出	316,109
資産運用支出	301,859
その他の支出	2,332,636
内部資金支出	0
資金支出調整勘定	△ 1,112,084
翌年度繰越支払資金	21,357,239
支出の部 合 計	102,494,078

【財産目録】

科 目	金 額
基本財産計	156,837,025
運用財産計	127,239,286
資産の部合計	284,076,311
固定負債計	5,655,000
流動負債計	3,532,345
負債の部合計	9,187,345
差引純資産	274,888,966

(参考)

事業活動収入計 84,681,294

事業活動支出計 84,641,241

園のコメント

少子化が進み園児数の自然減は止みません。本学の建学の精神に基づく幼児教育の遂行は、教育内容の充実と資質向上を図るため、優秀な人材の確保・環境教育としての施設設備の充実を進めなくてはなりません。しかし、地域の少子化による園児数の現象が進み、学園経営は大変難しい状況下であります。

また、幼稚園教育の無償化の証として、幼児教育の重要性・子ども的人権は社会の中でしっかりと認知されました。そんな中、令和3年度公立幼稚園の統廃合が行われ、本学が地域の幼児教育の担い手として、また地域子育てのコミュニティとして地域社会に対する責務はより一層高まりその責務の重大さをあらためて認識するものです。その意味においても日々、研鑽を重ね、教育環境の充実と教職員の献身的な努力により幼児教育の振興に取り組んでいます。しかし経営状況は計算書からも分かる通り大変厳しい状況であります。そこで園児数の変異に一喜一憂することのない充実した教育経営を進めるため令和4年度より施設型給付園に移行する事を決めその準備をすすめました。今後も小さな努力を重ねる事で、教育内容の充実と計画経営に傾注し健全経営を目指してきます。コロナ禍の対策・防災防犯・健康安全・保健衛生に心掛け、子ども達の最善の利益を追求する教育施設として使命を果たすべく、教職員一丸になって研鑽努力に努めてまいります。

【事業活動計算書】

科 目	決 算 額
教育活動収支の部	
学生生徒等納付金	44,487,430
寄付金	52,000
補助金	29,243,500
事業収入	9,606,550
雑収入	1,288,747
教育活動収入合計	84,678,227
教育活動支出合計	84,559,862
教育活動収支差額	118,365
教育活動外収支の部	
受取利息・配当金収入	3,067
教育活動外支出	81,379
教育活動外収支差額	△ 78,312
経常収支差額	40,053
特別収支差額(資産処分)	
基本金組入前当年度収支差額	40,053
基本金組入額合計	△ 316,109
当年度収支差額	△ 276,056
前年度繰越収支差額	△ 42,786,524
翌年度繰越収支差額	△ 43,062,580

【貸借対照表】

科目	本年度末
資産の部	
固定資産	259,488,839
流動資産	22,602,973
資産の部合計	282,091,812
負債の部	
固定負債	4,851,000
流動負債	2,311,793
負債の部合計	7,162,793
基本金の部	
第1号 基本金	310,277,927
第4号 基本金	7,713,672
基本金の部合計	317,991,599
繰越収支差額	△ 43,062,580
純資産の部合計	274,929,019
負債及び純資産の部合計	282,091,812

理事長・園長 藤田道信